

3 授業実践と評価の実際

(2) 「心の学び記録」を活用した見取り

自己評価

ア 年度当初の見取り

「心の学び記録」を活用して年度当初に見取りを行いました(図1)。まず、実施した「心の学び記録」の自己評価を「心の学び記録入力シート」の「心の学び記録①」シートに入力しました。そのデータを基に個人の意識及び学級全体の傾向を把握しました。なお、便宜上、児童生徒の意識を数値に換算し、「◎(よくできている)」を3点、「○(だいたいできている)」を2点、「△(あまりできていない)」を1点として集計しました。

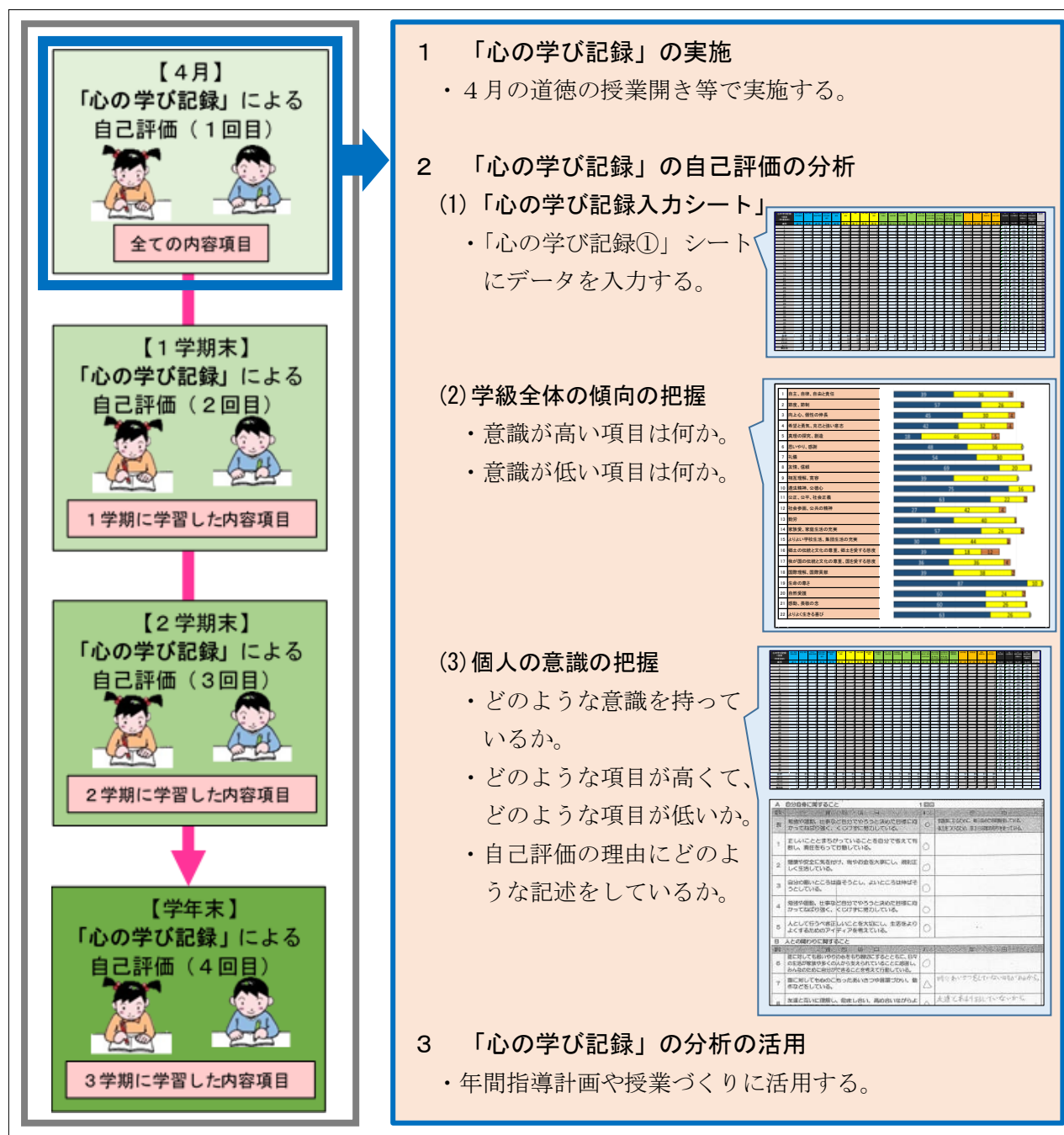


図1 「心の学び記録」を活用した見取りの流れ（年度当初）

(7) 学級全体

小学校の学級の全体的な傾向として、「D 生命の尊さ(94)」「C 公正、公平、社会正義 (89)」「A 希望と勇気、努力と強い意志(88)」「B 友情、信頼(88)」「C 規則の尊重(88)」「C 家族愛、家庭生活の充実(87)」の内容項目に対する児童の意識が高いことが分かりました。括弧内の数字はその内容項目に対する合計点を表しています。

一方、「A 真理の探究(68)」「B 相互理解、寛容(68)」の内容項目に対する意識が低いことが分かりました(図2)。

これを見ると「命を大切にすること」「誰とでも仲良くすること」「目標をもって努力すること」「友達を大切にすること」「きまりを守ること」「家族を大切にすること」については、普段の生活の中でよく耳にする言葉であることから意識が高いことが推察されます。また、「生活をよりよくすること」「自分と違う考えも大切にすること」については、特に意識しなければそこまで考えないで生活している傾向にあるため意識が低くなっていると推察されます。

理由の記述では、「C 規則の尊重(88)」の内容項目で、「なぜ守らないといけないのか分からない」と記述していた児童がいました。全体的には意識の高い内容項目においても、実はその本質まで理解できている児童は少ないのではないかと考え、本研究では、「きまりを守るとは」という主題で授業実践を行うこととしました。

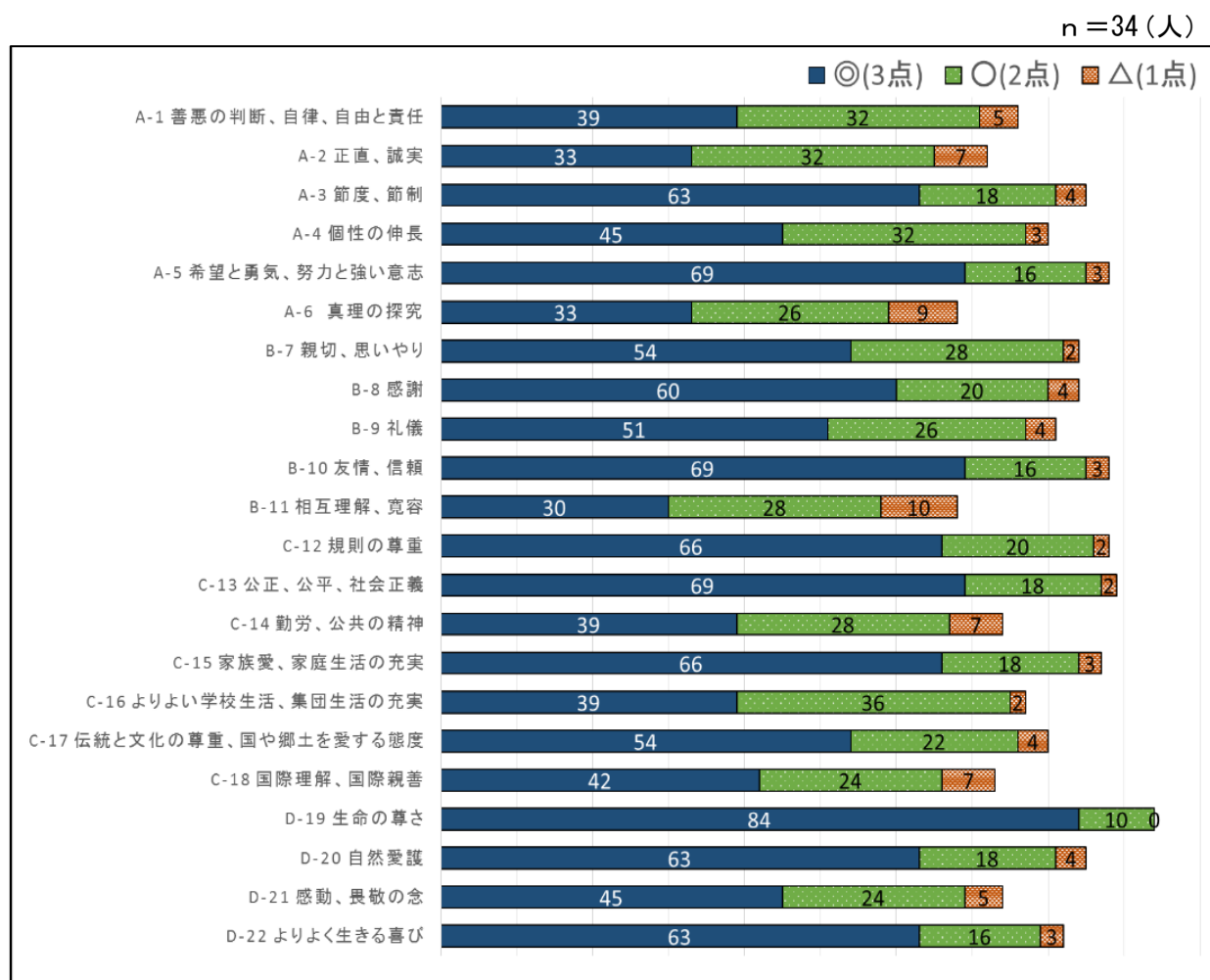


図2 小学校 心の学び記録(4月)の内容項目別意識

中学校の学級の全体的な傾向として、「D-19 生命の尊さ(97)」「C-10 遵法精神、公德心(92)」「B-8 友情、信頼(90)」「D-22 よりよく生きる喜び(89)」「C-11 公正、公平、社会正義(87)」「D-21 感動、畏敬の念(87)」の内容項目に対する生徒の意識が高いことが分かりました。括弧内の数字はその内容項目に対する合計点を表しています。

一方、「C-16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度(69)」「A-5 真理の探究、創造(69)」の内容項目に対する意識が低いことが分かりました（図3）。

「C-16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」については、12名の生徒が△（あまりできていない）と答えており、他の内容項目に比べて、意識の低さが目立ちました。これは、中学生になり、部活動や習い事等で地域の行事への参加ができていない状況を表していると推察しました。

そこで本研究では「郷土を愛する心」を主題として授業実践を行うこととしました。また、「A-5 真理の探究、創造(69)」については、◎（よくできている）と答えた生徒が全ての内容項目の中で最も少ない6名でした。小学校でも意識が低いことから、実現することが難しい内容項目であると考察します。

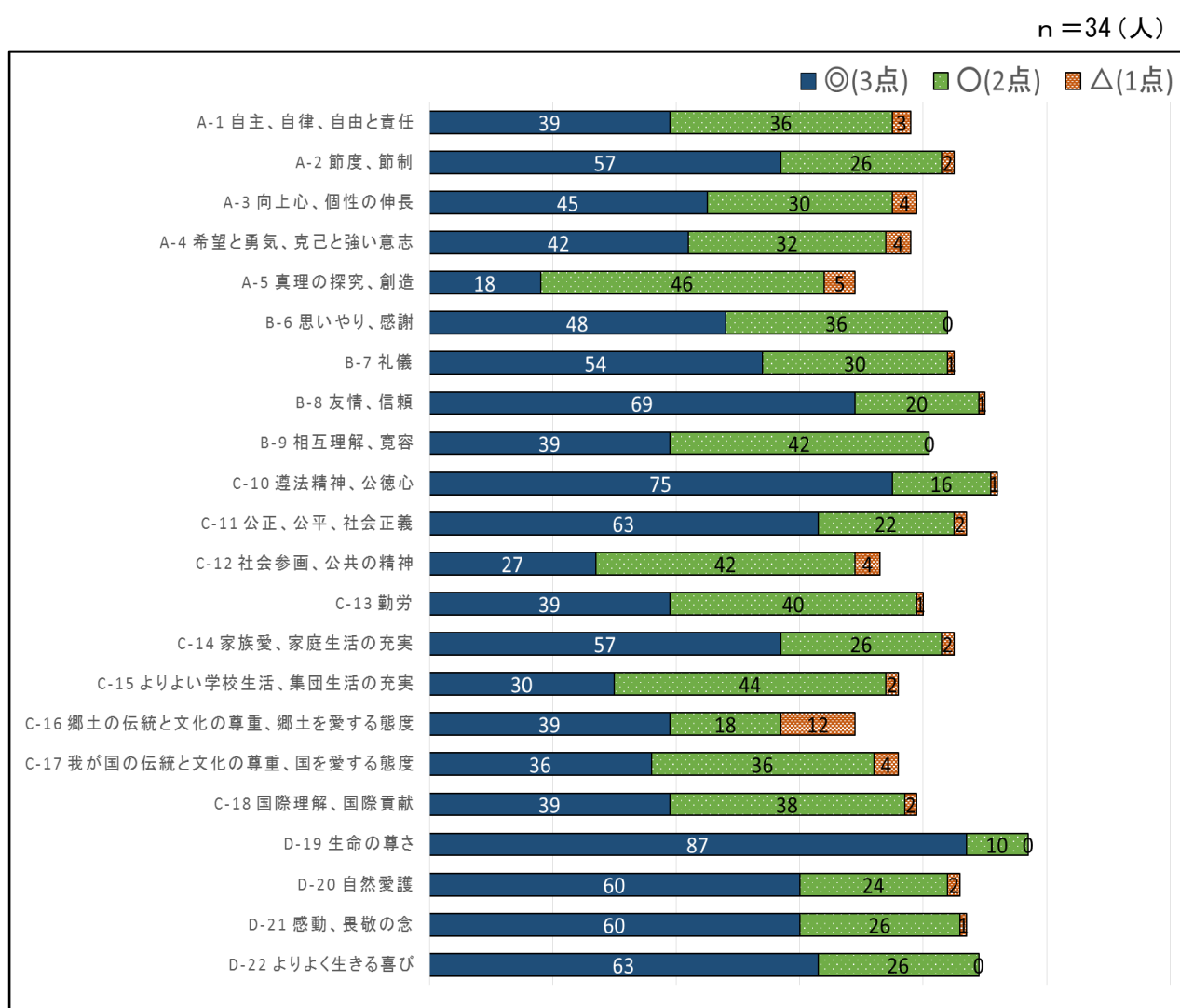


図3 中学校 心の学び記録（5月）の内容項目別意識

これらの結果と学校や学年の重点指導項目を踏まえて、年間指導計画を考え授業を実践していくことが有効であると考えます。

(イ) 個人

次に、児童生徒個人の意識を把握しました。「どのような意識を持っているか」「どのような項目が高く、どのような項目が低いのか」ということを、「心の学び記録」の自己評価（資料 1）や「心の学び記録①」シート（次頁表 1）から見取りました。「心の学び記録①」シートでは内容項目のまとまりを示す視点ごと「A 主として自分自身に関すること」、「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に把握しました。ここでは、生徒 A を例として説明します。

A 自分自身に関すること		1 回目
番号	質問項目	理由
例	勉強や運動、仕事など自分でやろうと決めた目標に向かってねばり強く、くじけずに努力している。	〇 習字師になるために、毎日決めた時間勉強している。体力をつけるため、週 3 日は家の周りを走っている。
1	正しいこととまちがっていることを自分で考えて判断し、責任をもって行動している。	〇
2	健康や安全に気を付け、物やお金を大事にし、規則正しく生活している。	〇
3	自分の悪いところは直そうとし、よいところは伸ばそうとしている。	〇
4	勉強や運動、仕事など自分でやろうと決めた目標に向かってねばり強く、くじけずに努力している。	〇
5	人として行すべき正しいことを大切に、生活をよりよくするためのアイデアを考えている。	〇
B 人との関わりに関すること		
番号	質問項目	理由
6	誰に対しても思いやりの心をもち親切にするとともに、日々の生活が家族や多くの人から支えられていることに感謝し、みんなのために自分ができることを考えて行動している。	〇
7	誰に対しても心のこもったあいさつや言葉づかい、動作などを行っている。	△ 時々あいさつをしない時があるから。
8	友達と互いに理解し、励まし合い、高め合いながらよりよい関係を作ろうとしている。	△ 友達とあまり話していないから。
9	自分の考えや意見を相手に伝えたり、自分とは異なる考えや意見を大切にしたりしている。	〇
C 集団や社会との関わりに関すること		
番号	質問項目	理由
10	なぜ法やきまりがあるのかを理解し、それを大切に、守ろうとしている。	△ 時々ルールを知らない時があるから。
11	誰に対しても分けへだてをせず、みんなと仲良くしている。	△ 時々友達とけんかをする時があるから。
12	学級活動や生徒会活動に進んで参加し、互いに助け合ったり励まし合ったりしている。	△ 学校の活動などに参加していないから。
13	働くことの大切さや喜びを知り、みんなのために進んで働いている。	〇
14	父、母、祖父、祖母など家族のことを大切に思い、家族のために役立つことをしている。	△ お手伝いなどをあまりしていないから。
15	先生や学校にいる人のことを大切に思い、よりよい学級や学校をつくるために、自分ができることをしている。	〇
16	ふるさとの伝統と文化を大切にしたり、地域の人と一緒にふるさとの行事に参加したりしている。	△ 地域の行事に参加していないから。
17	日本の伝統と文化のよさを知り、それを大切にしている。	〇
18	いろいろな国のよさが分かり、関心や親しみをもっている。	〇
D 生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること		
番号	質問項目	理由
19	命はかけがえのないものであることを理解し、いつも大切にしている。	〇
20	自然のすばらしさや不思議さを知り、自然や動物、植物を大切にしている。	〇
21	美しい風景、文学や美術、音楽などを通して感動したり、人の心の優しさや温かさに対して尊敬したりしている。	〇
22	誰にでも心の弱さがあることが分かり、それに負けずに強く生きていこうとしている。	〇

資料 1 「心の学び記録」（生徒 A）

表 1 自己評価の集計結果（生徒 A）

自主、自律、自由と責任	態度、節制	向上心、個性の伸長	孝行と孝親、親己と強い意志	誠意の伸長、創造	思いやり、感謝	礼儀	家族、信望	相互信頼、寛容	道徳精神、公徳心	公正、公平、社会正義	社会参加、公共の精神	勤労	家族愛、愛国	ふたつと生活の充実	志士の伝統と文化の継承、郷土を愛する態度	我が国の伝統と文化の継承、郷土を愛する態度	国際貢献	生命の尊厳	自然愛護	感動、畏敬の念	ふたつと生きる喜び	A 自分自身	B 人との関わり	C 集団や社会との関わり	D 生命や自然、崇高なものとの関わり	合計
A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-6	B-7	B-8	B-9	C-10	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15	C-16	C-17	C-18	D-19	D-20	D-21	D-22	(5-15)	(4-12)	(9-27)	(4-12)	(22-66)
2	2	2	2	2	2	1	1	2	1	1	1	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	10	6	13	8	37

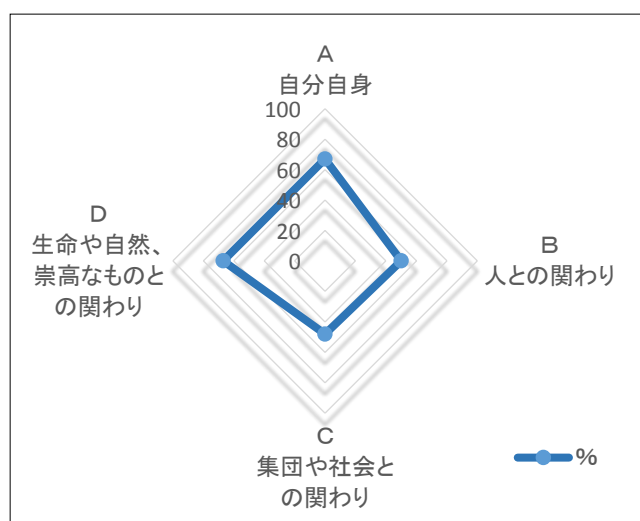


図 4 視点別割合（生徒 A）

生徒 A は、22 の質問項目において、

◎を 0 個 ○を 15 個 △を 7 個

記述していました（前頁資料 1）。これは、学級の中でも、内容項目に関わって全体的に意識が低い傾向にあると考えられました。

また、視点については、

「B 主として人との関わりに関すること」 ……12 点中 6 点（50%）

「C 主として集団や社会との関わりに関すること」 ……27 点中 13 点（48%）

において意識が低い傾向にあると考えられました（表 1、図 4）。

人との関わりについて、「心の学び記録」（前頁資料 1）を見ると、「B 主として人との関わりに関すること」では、「時々あいさつをしていない時があるから」、「友達とあまり話していないから」と記述していました。これらのことから、人との関わりにおいて挨拶や会話に消極的であることがうかがえました。また、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」では、「時々友達とけんかをすることがあるから」、「学校の活動などに参加していないから」、「地域の行事にあまり参加していないから」と記述していました。人との関わりだけでなく、集団や社会との関わりについても、消極的であることがうかがえました。道徳科の授業でこれらの内容項目を扱うときに、積極的に声掛けをしたり丁寧に様子を観察したりすることが有効であると考えられます。さらに、学級活動においても、挨拶週間の設定や人間関係づくり等の活動を取り入れていくことが大切であると言えます。

この「心の学び記録」による自己評価は、児童生徒の学習活動であり、教師が行う評価活動ではありません。そのため、自己評価の◎、○、△（点数）はあくまでも児童生徒が理由を記述する際の目安であり、そのように答えた理由を確かめることが大切です。学期ごとに年間で複数回実施することで、児童生徒の良い点や可能性、学ぶ意欲や実践意欲の高まりを見取ることができ、個人内評価につながると考えました。また、普段の生活の中での適切な指導や配慮にも生かすこともできると考えます。

イ 学期ごとの見取り

「心の学び記録」は、年間を通して1枚の用紙に記入していくことができます。そのため、児童生徒は学期ごとに自己評価を記入することで、その学期の自分自身の学びを振り返ることができます。ここでは、年度当初の「心の学び記録」の記述と授業実施後に行った「心の学び記録」の記述から、児童生徒の意識の変容を見取った流れを紹介します（図5）。

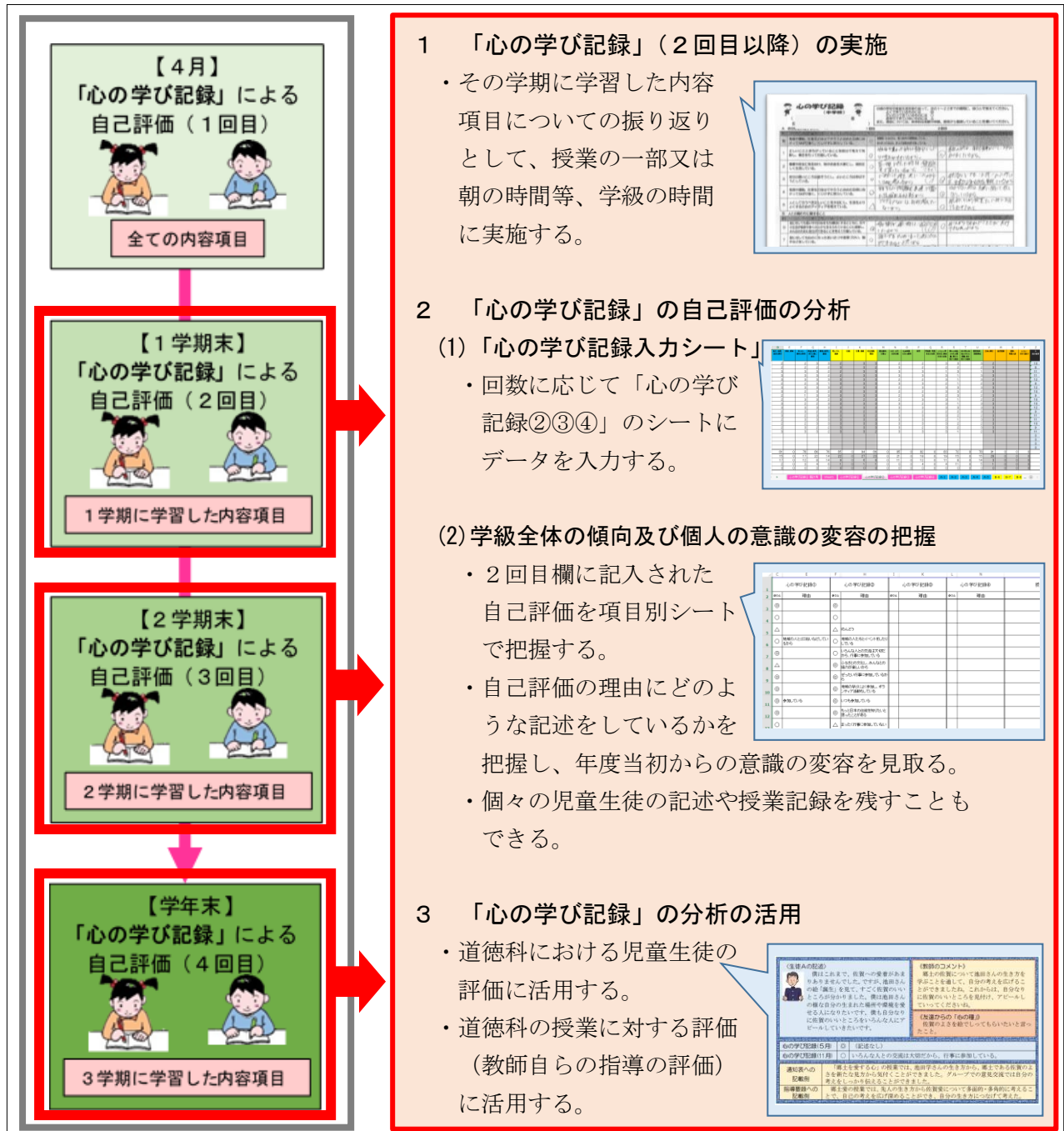


図5 「心の学び記録」を活用した見取りの流れ（学期末・年度末）

学級全体・個人

自己評価の理由の記述について分析することで、更なる児童生徒理解につながると考えます。特に、マイナスに記述が変化した児童生徒については、なぜそのような自己評価になったのかを、記述から解釈したり、児童生徒と直接話したりするなど、教師が個人内での変容を捉えていくことが大切だと考えました。

小学校の実践において、年度当初（４月）と１０月の授業実践後（１１月）に実施した「心の学び記録」の自己評価を比較すると、◎は 24 人→24 人、○は 9 人→ 12 人、△は 3 人→ 0 人となりました（表 2）。

表 2 小学校「心の学び記録」による自己評価の変容【内容項目 C 規則の尊重】

「なぜ法やきまりがあるのかを理解し、それを大切にし、守ろうとしている。」

◎よくできている ○だいたいできている △あまりできていない

心の学び記録①4月		心の学び記録②11月	
◎○△	理由	◎○△	理由
◎	守ろうと努力している。	◎	きまりは命を守るためにあるのを理解して守ろうと努力している。
○	少しめんどくさがって読んだりしないから。	○	きまりなどを守ろうとはするけど、つい遊びに夢中になってきまりを忘れて守れていない。
◎	学校のきまりを守っている。	◎	法やきまりがなかったら、もっとたくさん事件や事故があると思う。きまりや法は大切で、守らないといけないと思う。
◎	記述なし	○	きまりを守らなかったら大変なことになるからそれを避けるために守っている。
◎	きまりがないと犯罪がいっぱい増えて、大変なことになるから。	◎	自分の身内だけでなく他の人の身内も考えて生活しようと思っている。
◎	きまりがなかったら事故だらけになってしまう。	○	学校のルールは少し破っているかもしれないけど、家のきまりは守っている。
○	時々うるさいと思う。でも自分のためと思えばうれしい。	○	守ろうとしているけれど、時々そのルールを忘れてしまったりやぶってしまったりするから。
◎	きまりを守らずにけがをしたことがあるから。	◎	きまりは人の命を守るようなものだから今はほとんど守っている。
◎	きまりをやぶらないことをがんばる。	◎	きまりを意識していたら大人になっても守れると思うから。
◎	登校中に車が来たら止まっている。	◎	ああしくちゃだめだ、ああしたらだめだなどと考えていろいろやっている。
○	きまりは守ろうとしている。	◎	法やきまりはけがや事故を防ぐためにあると思う。けがや事故にあいたくないので守っている。
◎	きまりはぜったいに守っている。	○	何でいけないのかを説明してくれたら理解できる。
○	学校のきまりは守っている。	◎	その時の状況をしっかり見て何が大切なのかを考えて行動できるようにしている。
○	自分達が安全に暮らせるように。	◎	きまりとはみんなが安全に暮らせるようにあり、楽しい思い出がなくならないようにあると思う。
△	きまりがなぜあるのか理解ができない。	○	安全な生活をするために守っている。
◎	きまりを守って生活している。	◎	きまりがあることで危険なことが少なくなり、みんなが安心できるから。
◎	きまりをやぶったことはない。きまり通りにしている。	◎	きまりを守らないとけがをしたり入院したり、命をおとすということも頭に入れて生活している。
◎	みんな守っているから一人だけ守らないのはおかしい。	○	法やきまりをやぶられて困る人がある。その人の立場になって考える。

△	あまりそういう考えはない。	◎	法やきまりは人の命を守るためにあると分かっているから。
◎	自分の命とか大切にしないといけないから守るようにしている。	◎	自分や家族や友達の命や身の安全のために法やきまりを守らないといけないので守るようにしている。
◎	きまりを理解して守ろうとしている。	○	ちゃんとしたきまりがあってそれを守らないといけないと思うから。
◎	自転車に乗るときちゃんとヘルメットをかぶっている。	◎	法やきまりは自分たちの命を守るためのもので、家や学校のきまりを守っている。
◎	ヘルメットをかぶっている。	◎	どんな時でも他人を巻き込まないようにきまりを守ろうと思う。
◎	友達がゲームセンターに誘ってきてもきまりがあるからだめ。	◎	自分だけ良いと思わず、みんなのことを考えて行動するようにしている。
◎	いとこがゲームセンターやカラオケに行こうと言っても断る。	◎	誰かにゲームセンターに誘われてもすぐに断っている。
◎	ルールを守らなかったけどそのルールは自分のためにあると思ったから。	◎	どんな状況でもきまりを守らないといけないし、みんながきまりを守らなかったら大変なことになる。
○	カラオケなどに行ってみたいので理解しきれない。	◎	きまりは自分や他の人の命を守るためにあると理解することができた。
◎	人の命を守るために、法、きまり、ルールがあると思う。	◎	法やきまりがあることで1人でも多くの人を助けることができると思う。
△	きまりを理解せずにゲームセンターに行った。	○	きまりを理解せずにゲームセンターに行ったので、今からはそんなことはしない。
○	分かっているけどついやってしまうことがある。	◎	車が路側帯を走っていないのを見てきまりを守っていると思う。
◎	学校のきまりをやぶっている人に注意した。	○	「5時までに帰る」という学校のきまりを守れなかったりする。でもなぜきまりがあるのかは理解している。
○	きまりをやぶったことがある。	○	学校のきまりをやぶったことがある。みんながきまりを守ってしっかりと生活するためにあると思う。
◎	ヘルメットが壊れてからは一度も自転車に乗っていない。	◎	法やきまりは自分達を守ることが分かったからきまりを守って遊んでいる。
◎	記述なし	◎	人の迷惑にならないようにきまりを守っている。
◎	きまりはみんなが楽しく過ごすためにあるから守っている。	○	たまにきまりをやぶってしまうけど、きまりを守らないと命に関わることもあるので気を付けたい。
○	学校のきまりをしっかり守って元気に過ごしている。	◎	自分がきまりを守ると周りの人の命も助かると勉強したのでそれを心掛けて守れている。

個々の児童の自己評価の変容について分析すると、

プラスになった児童→9人 変容がなかった児童→20人 マイナスになった児童→7人

となりました（表2）。

これらの結果から、学級全体で見ると、授業実践後の調査でわずかに意識が高まっていることがうかがえました。プラスになった児童の1人は「きまりがなぜあるのか理解できない」から「安全な生活をするために守っている」という記述の変容が見られました。このことから、一定の期間を経てきまりの意義を理解していることがうかがえました。マイナスになった児童の1人は「学校のきまりをやぶっている人に注意した」から『5時までに帰る』という学校のきまりを守れなかったりする。でもなぜきまりがあるのかは理解している」と記述していました。このことから、道徳的価値に照らし合わせた自己の姿をきちんと捉えていることがうかがえました。

全体的な傾向としては、4月に記述したときよりもきまりの意義を深く理解し、判断の根拠をもって自己評価をしていることがうかがえました。このことから、道徳科の授業を含む一定の期間を経ることで、道徳的価値に対する意識を高めることができていると考えられます。

次に、中学校の実践において、年度当初（5月）と9月の授業実践後（11月）に実施した「心の学び記録」の自己評価を比較すると、◎は13人→15人、○は9人→8人、△は12人→11人となりました（表3）。

また、個々の生徒の自己評価の変容について分析すると、

プラスになった生徒→5人 変容がなかった生徒→25人 マイナスになった生徒→4人となりました（表3）。

これらの結果から、学級全体で見ると、授業実践後の調査でわずかに意識が高まっていることがうかがえました。また、自己評価がマイナスになった4名の生徒については、記述を詳細に考察しました。自己評価の理由が5月に未記入だった3名の自己評価とその理由は、「◎→○（いろいろな人との交流は大切だから、行事に参加している）」「○→△（まったく行事に参加していない）」「◎→○（よく参加している）」でした。これらの記述は、授業で郷土愛について学び、その理解が深まった結果と捉えることができると考えました。他方、5月に「○（地域の行事にはたくさん行っている）」と記述しており、11月に「△（あまり興味がない）」と記述した生徒については、更に詳しく話を聞きたいと考え、個別に声掛けをしました。

全体的な傾向としては、5月に記述したときよりも判断の根拠をもって自己評価をしていることがうかがえました。

なお、この質問項目については、生徒が判断する際に、その判断理由として地域の行事への参加の有無で回答している傾向がありました。そのため、本研究で提供している「心の学び記録」の様式では、実践意欲や態度を問えるように、「ふるさとの伝統と文化を大切に、地域のために自分にできることを考えている」へと変更しています。

表3 中学校「心の学び記録」意識の変容
【内容項目C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】

「ふるさとの伝統と文化を大切にしたり、
地域の人と一緒にふるさとの行事に参加したりしている。」

◎よくできている ○だいたいできている △あまりできていない

心の学び記録①5月		心の学び記録②11月	
◎○△	理由	◎○△	理由
◎		◎	
○		○	
△		△	めんどろ
○	地域の人とゴミ拾いなどしているから	○	地域の人たちとイベントをしたりしている
◎		○	いろいろな人との交流は大切だから、行事に参加している
△		◎	ふるさとの文化し、みんなとの協力が楽しいから
◎		◎	ぜったい行事に参加しているから
◎		◎	地域の祭りによく参加し、ボランティア活動もしている
◎	参加している	◎	いつも参加している
◎		◎	もっと日本の伝統を知りたいと思ったことがある
○		△	まったく行事に参加していない
△		△	参加していない
◎	毎年、祭りがあるときは必ず参加して地域の人と仲良くしているから	◎	祭りの準備も毎年手伝っているし、地域の人ともちゃんと声掛けをしているから
○		◎	行事をやることでそれ歴史などを知ることができるから
◎		◎	行事に出れるときは必ず出ている
△	地域の行事にあまり参加していないから	△	行事に参加できていないから
○		◎	行事に参加している
○	行事には参加しているけど正直必要じゃないと思うものもある	○	
◎		◎	一つ一つの行事を大切にしてい取り組んでいるから
△		△	地域の行事に参加しないから
△		△	自分から進んでできていない
△	伝統などは苦手だから、地域の行事などに参加をあまりしていない	△	地域の人と関わる機会がない
◎	だいたい行事に参加しているから	◎	行事に参加しているから
◎	小学校の頃は子どもクラブに入っていたから	◎	小学生の頃は子どもクラブに入っていたから
◎	地域の行事などにもほとんど参加しているから	◎	地域の行事に参加しているから
○	地域の行事にはたくさん行っている	△	あまり興味がない
△	活動にはあまり参加したことがないから	△	あまりないから
△	行事にあまり参加できていないから	◎	地域の祭りなどにいったから
◎		○	よく参加している
△	あまり地域の行事に参加していないから、挨拶などで返す	○	あいさつなどをしているから
△	この頃あまり地域の行事に参加していないから	△	参加していない
○		○	地域活動に参加し、もっとよりよい地域にしようとしている
○		○	地域の行事に積極的に参加しようとしている
△		△	地域の行事には参加していない